

【WITH コロナ】感染症対応下での子どもたちの体験活動について

J P 子どもの森づくり運動にご支援を賜り、ありがとうございます。

現在、保育活動では、新型コロナウイルス感染症対策として、子どもたちの屋外での体験活動が制限されています。まずは子どもたちの安全が第一として止むを得ない対応として保育者に共有されています。

一方、屋外でのびのびと自由に遊ぶことは、子どもたち、特に幼児(少)期の子どもの発達にとって必要不可欠なことです。幼児(少)期の子どもたちは、外遊びや自然体験活動など、五感に訴求する多様な体験活動の中でこそ子ども本来の「生きる力」を育むものです。

2021年9月現在、園児たちの体験活動が規制されてから半年が過ぎ、今、体験活動不足による子どもたちの発達不足が懸念されています。子森ネットが提案し、参加園にご共感いただいたことで実現した今回の活動は、上記の問題意識の中で行われる活動です。

小さな子どもたちにとっての半年や1年は、大人のそれとは違い、かけがえのない期間です。わたしたちは、本活動を通じて子どもたちの心に、この時期ならではの思い出づくりの機会を提供できればと願っております。

活動は、実施園と子森ネットの連携で、以下の徹底した感染症対応の中で実施されます。皆様のご共感とご理解をお願い申し上げます。

<活動における子森ネットの感染症対策について>

1. 園に出入りする事務局、講師、録音技術等関係者（以下「スタッフ」）の人数を必要最低限とします。
2. スタッフが園出入りする際、検温、手指消毒を徹底します。
3. スタッフ在園中は、マスク、あるいはフェイスマスクを使用し、活動運営中は子どもたちとの必要な距離を確保します。
4. その他の感染症防止対応についても実施園と十分な事前打合せを実施し、万全な体制の中で運営させていただきます。
5. 最終的な活動実施の判断については、地域（市町村）における感染症状況を踏まえて実施園との協議の上で決定するものとします。